

暗闇の原子炉建屋へ入城し，原子炉圧力計にて原子炉圧力が 6.9MPa (20:07) であることを確認した。その後，21:19 に原子炉水位計が復旧し，有効燃料頂部（以下，「TAF」）+200mmであることを確認した。

### 【ICの操作】

- ・ 原子炉への代替注水ラインの構成が整い，運転員は他に中央制御室で対応可能な操作を確認していたところ，ICの戻り配管隔離弁（M0-3A）の閉状態表示灯が消えかかっていることを確認した。
- ・ ICの設備概要にて，胴側への補給水がない状態で10時間程度運転可能であることを確認し，これまでの運転状況から胴側には水があると考えた。DDFPが起動していることでIC胴側への給水にも対応できるようになったことから，ICが次はいつ操作できるか分からない状況であることも踏まえ，ICが動作することを期待し，一旦は閉止した戻り配管隔離弁（M0-3A）を21:30に再度開操作したところ弁は開動作し，蒸気の発生を蒸気発生音と原子炉建屋越しに見えた蒸気により確認した。また，発電所対策本部発電班は，免震重要棟の外に出て，蒸気の発生状況を確認した。

## ○「3/12 1:48 消防車から消火系ラインへの送水口につなぎこむことを検討開始」以降の活動内容

### 【ディーゼル駆動消火ポンプの復旧】

- ・ 1:48，原子炉への注水のために運転状態で待機していたディーゼル駆動消火ポンプがある時点から停止しており，復旧のため，手作業で軽油を運搬し補給するとともに，構内企業で保管していたバッテリーを運搬し，交換する等の方法で復旧作業を実施，12:53，作業が完了。その後，起動操作を行ったが，起動することができなかった。13:21，セルモータの地絡で使用できないことが発電所対策本部へ報告された。

### 【消防車による注水の準備】

- ・ 消火栓は水が噴き出しており，ろ過水を水源として使用できない状況であったため，ろ過水の確保のために周りの弁を閉める処置を実施。また，他の水源を探し，防火水槽が使用できることを確認。
- ・ 消防車は発電所に配備していたもののうち1台を利用することで準備を進めた。他の2台のう



構内道路の状況